

は  
な  
な  
な  
な



成人向  
FOR ADULT ONLY





う……ん

なん……だ？

そうか

ちよつと横  
になるだけの  
つもりが

本気で寝ち  
まったみ……

み……

み……

……あ

こだ……っ





見ちや  
ダメえっ!!

うがぁ!

見た?



見た...  
って

な...  
何を?



今見た?

見たの?



ナ...ナニ  
って...

何言ってる  
のよ...

ナニって  
言ったら

アレに決まっ  
てるじゃない



...あー

み...  
見てないけど

ホッ

良かった

小鷹「……で」

星奈「ん？」

小鷹「なんで俺は部屋で下半身丸出し状態で、その丸出しの下半身を村前に隠してもらってるのかな」

星奈「そもそもそんなのは……恥ずかしいからに決まってるじゃないのよ」

小鷹「恥ずかしい？」

星奈「当たり前でしょ？ こんなところ……アンタに見られるくらいなら、死んだほうがマシよ」

小鷹「……えーと。そもそも何で俺の下半身は裸なのかな」

星奈「え……それは……」

小鷹「それは？」

星奈「それは……その……」

小鷹「なんだよ」

星奈「……他に誰がいるのよー アンタが自分で脱いだんなら

小鷹「あー。ま、そりゃそうだ……って、そうじゃねーだろうー」

星奈「……そんなに知りたくない？」

小鷹「あー聞かせてもらおうじゃないか」

星奈「……仕方ないわね。アレを見て」 (テレビに映るゲーム画面を指さして)

小鷹「……？」

星奈「色々アダルトゲームをやっていると、必ずある疑問にプチ当たるのよ……」

小鷹「疑問……って？」

星奈「あのモザイクよ。あの向こう側に一体何があるのか……」

小鷹「……それで、見たワケか」

星奈「へー。変なこと言わないで、まだ見てないわよー 恥ずかしくて、その、まだチラッとしか……」

小鷹「(見てんじゃねーかよ)」

星奈「これからじっくり……って思ったら小鷹が起きちゃうんだものー」

小鷹「(じっくりねえ……)」

小鷹「じゃあ、もう用は済んだんだろ。パンツとってくれよ」

星奈「だっー ダメよまだー」

小鷹「だって、もう分かったんだろ？ モザイクの向こう側がどうなってるのか」

星奈「ダメったらダメー 絶対ダメー」

小鷹「何でだよ」

星奈「だって、その……。何か、全然違うんだもの」

小鷹「ナニと」

星奈「想像と」

小鷹「……」

星奈「だって。夜空から聞いたのと全然……」

小鷹「アイツの言うことを真に受けるなよ」

星奈「じゃあ。小鷹の方が正しいの？」

小鷹「たっ……正しいとまでは言わんが。……むしろ正しくないってのはどういう状態の事を指すんだ？」

星奈「分かんないわよ。分かんないから知りたいんじゃない」

星奈「でも小鷹だって、気になるでしょ？ あのモヤモヤしたモザイクの(向こう側)が……」

小鷹「俺は自分のを毎日見てるからそんな事はない」

星奈「ばっ……パッカじゃないのアンター……オトコのモザイクのおじやないわよアホー」

小鷹「え？……あ。ああ？」

小鷹「いや……だってほら。アレだ、流石にそれはちよつとな、俺達まだ学生だし、そういう展開は、うん……」

星奈「はい決まった」

小鷹「え……ん？ 何？」

星奈「私がわざわざあいこの条件を提示してあげたのに遠慮しちやうって。優しいわね小鷹」

星奈「という事で、小鷹は自ら見る権利を放棄。私は見たいから引き続き見る権利がある。以上」

小鷹「なっ……ええっ……？」

星奈「男に二言はないわよねえ。ないわよねえー？」

小鷹「……」

星奈「(ゴク……) じ……じゃあ、見るわよ。見ちやうわよ。いいわね、覚悟できてるー」

小鷹「はいはい、とっとと済ませてくれ。寝起きで腹減ってんだよ、帰って夕飯作らないといかんし」

星奈「……見ないでよね」

小鷹「はあ？」

星奈「恥ずかしいんだから、こっちは見ないでよね」

小鷹「やめて帰るぞコラ」

星奈「あ、ああ。違う違う、大丈夫。うん。目を瞑ってくれただけでいいから」

小鷹「……ったく」



星奈 (ドキドキドキ)

小魔 「まだかー」

星奈 「……あ、あった」

小魔 「ないと困るからなー」

星奈 「しかし小魔……。何かその……。あいや……。なんでも……」

小魔 「なに」

星奈 「あの……。だけど……。なんとというか」

小魔 「なんだよどうした」

星奈 「小さいんだけど、物凄く」

小魔 「……何と比べてんだよ」

星奈 「そういう意味じゃなくて、その。……っていうか比べた事ある訳ないでしょー」

星奈 「そうじゃなくて、その……。もつとモザイクのは大きくて、その……。真っ直ぐで、長くてこう……」

小魔 「えつと……。それはですなあ」

星奈 「そうかー……。そ、そういう事か」

小魔 「じゃま、そういう事で」

星奈 「そういう事なら、仕方ないわね」

小魔 「分かってくれたか。じゃ帰ろう」

星奈 「そうじゃないでしょ。私はモザイクの向こう側を知りたいんだから」

小魔 「え」

星奈 「大きくしてーこれでもかっくらいいー」

小魔 「え、えーと」

星奈 「何、どうしたの。早くー」

小魔 「星奈。お前コレがどうして大きくなるのか、そのメカニズムは分かっているのか」

星奈 「それはその……。あれでしょ。発情してムラムラしてるんですよ？」

小魔 「そう。だから？」

星奈 「だから……。つて。そりゃ……。ああー」

小魔 「そういう事だ、うん」

星奈 「小魔のヘンタイパーカーウソコタレー」

小魔 「じゃあ、本当に終わりだ。いいな、もう」

星奈 「まって」

小魔 「なんだよまだか？」

星奈 「……わ。分かったわよ。そこまで小魔が私を見て欲しかったら言うなら……。モザイクのためだものね」

小魔 「なんでそういう事になるかー」

星奈 「み、見えてないわよね」

小魔 「そ、そりゃパンツ脱いだってスカート履いたままじゃ見ろつて言われても見えるわけないだろ」

星奈 「ったく。こんな血泳に育った美乳を拝ませてあげてもピクリともしないんじや……」

小魔 (胸は意外と見慣れちゃったんだよな。見てないことになつてから言えないけど)

星奈 「いいいい、いくわよ。ハイッー」

小魔 「……こんな状態で跨がれても真っ暗だぞ」

星奈 「まつ……。真っ暗じゃなかったら丸見えになつちやうじゃない。馬鹿じゃないの？」

小魔 「……じゃあ何を見てムラムラすればいいんだい俺は」

星奈 「え、えつと。それは、えつと」

小魔 「……え、えーいっー！ー！ー！ー」

ムニユ

小魔 「……をー？ をぶおい……。ほれなあ……。あ」

星奈 「見えなくてもそれなら分かるでしょー」

星奈 「あ」

ムク……

小魔 「あ」

ムクムクムク……

星奈 「あ、あわ、あわわわわわわわ」

星奈 「な！ なななにこれええええつー！ー」

星奈 「な、なにこれ小魔……。ちよつと、こんなに、大きく……」

小魔 「何つて。それが見たかったんだろお前は」

星奈 「見たかった？ 私か？ 何だよ……。え？」

小魔 「それよりお前……。何か、ちよつと。冷いぞ……」

星奈 「冷いって……。何が」

小魔 「俺の顔がビショビショなんだが。これつて……。お漏らしじゃないんだよ……な？」

星奈 「え……。え？ あ……。ああ」

小魔 「ど、どうした星奈」

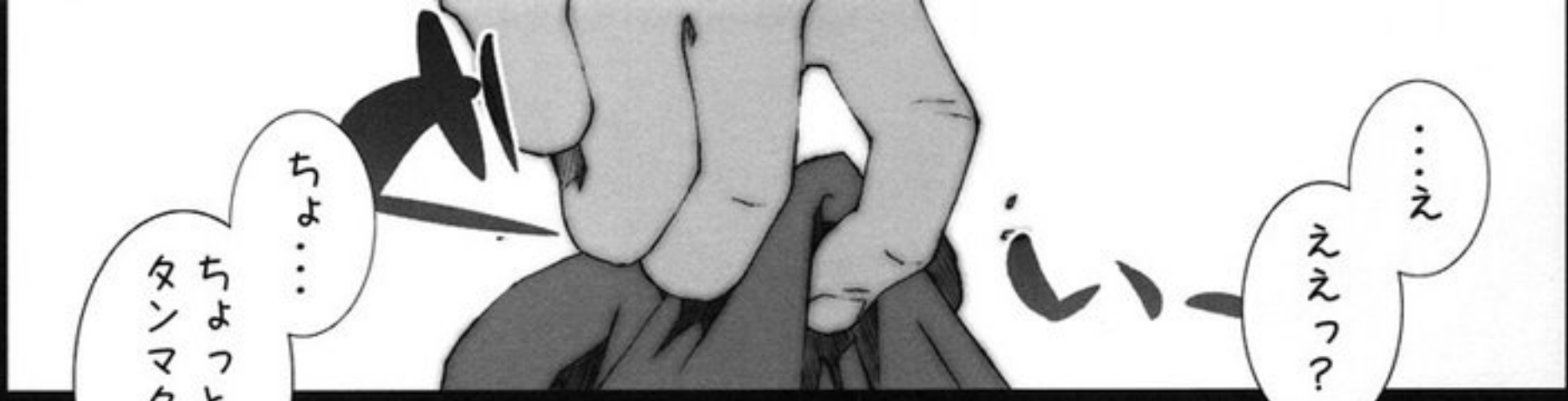
星奈 「なん……。か。裸に、ち、力が……」

小魔 「……。星奈」

星奈 「な……。なに……。？」







ええっ?  
ええっ?  
ええっ?

ちよ...  
ちよつと  
タンマタンマ



やっ  
やめてよ

なに?  
なに?  
なになに?

だめえ!!



ヒッ  
ヒッ  
ヒッ





え…  
え…  
えつと…

こ…  
小鷹…？



本気じゃ  
ないわよね？

冗談よね？



こんな  
状況で…

冗談も糞も  
ないだろう？





えっ？  
あっ嫌っ

あっ

ちよっ  
ちよっ  
ちよつと小鷹

まさか挿れる  
気じゃないで…

あっ

ひゃっ

あっ？

何っ？  
嫌あっ！

なっ…何っ  
何してんのよー

やっ…  
やあっ…やめっ

だっダメ…  
ダメよ…ああっ



や……だ  
凄い音がしてる  
私の……音

こんなには……  
びしよびしよに  
なつた事ないっ

どうした星奈  
怖いのか？

まさか  
この期に及んで  
まだ踏ん切りが  
つかないとか

べ……別にっ

そんなに  
挿れたいなら  
とつと挿れれば  
いいでしょ？

それとも  
焦らしてる  
つも……っ

!!  
っ



もしかして…  
挿っちゃって…  
る…の？

なんか…  
奥がジンジン  
してて…

なんだ…  
自分で分から  
ないのか？

はあ

痛いような  
痛くないような  
…分からない

自分の手で  
どうなってるのか  
確かめてみろよ

え…

あ…  
えっと…

は…  
挿ってる…

やだ…

本当に  
挿っちゃって  
るよ…



あっ



あああっ

いっ  
痛いわよっ

もっ  
と優しく  
出来ないの？

ったく  
思いやりって  
もんがないっ



しっ…  
仕方無いだろ

俺も初めてで  
良く分からない  
んだし…

というか  
単純に…

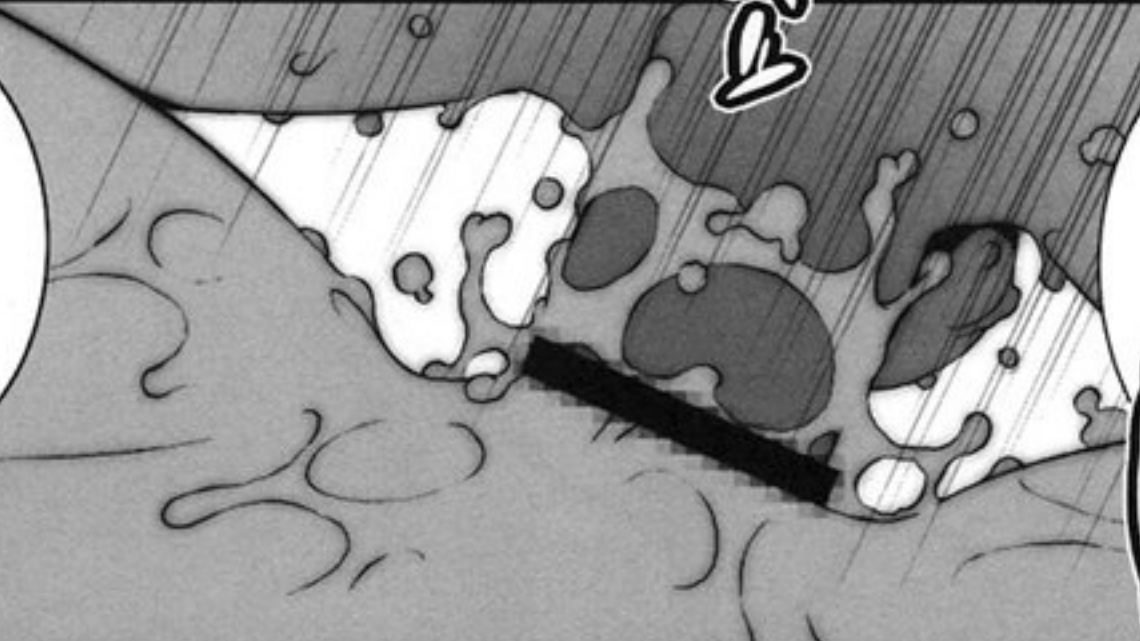
気持ち良過ぎて  
腰が…止まらない



え…何？  
気持ちイイの？

ああ…  
すげー気持ち  
イイよ…

こんなの  
初めてだよっ









イイわっ  
そのままイってっ

えっ?  
大丈夫なの?

99分...だし  
大丈夫...だし

私も気持ち  
イイから...

ああ...  
ナニ...これ

すっすっ

イッ  
ああ  
ああ  
ああ  
ああ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ





な：：なんか  
勢いで中でイッ  
ちやっただけど：：

本当に大丈夫  
だったの：？

わ：：  
私も勢いで許し  
ちやっただけど

こ：：小鷹が  
ゲームでよくある  
セリフ並べるから

私もつい釣られて  
言っちゃった：：

お：：おいおい



そこは釣られて  
言っただけだよな  
軽いセリフじゃ  
ないだろ：？

現実には  
ゲームとは違う  
んだからな

そんな事  
無いわよ：

ゲームだって  
ちやんと妊娠Eロ  
とかわるんだから



## 《実験的応募券》

イベント会場やとらのあな様で本を購入してくださっている方々に何かお礼が出来ないかなーと思ひまして、  
と言いながらもこれといつて何も決まてはいないんですが、  
何かいいアイデアが思いついた時の為になこんなページを用意してみました。

実にアナログ的な試みなので、  
実際何かをしようという事になつたとしても  
実務的な問題でなかなか思うようにいかない可能性もあります。  
時代におもいきり逆行している試みでもありますが  
「結局あのページ意味なかったな」という結末もありませんが  
といあえず実験的に用意してみた次第です。

何か企画が動いた際には  
下の短冊を切り取つて応募してみて下さい。  
本を直接購入して下さつた方々に何か出来ればと思ひます。

nori-haru

《はがき》 購入者用チケット①

《はがき》 購入者用チケット②

《はがき》 購入者用チケット③

《はがき》 購入者用チケット④

《はがき》 購入者用チケット⑤

《はがき》 購入者用チケット⑥



# ～はがおん～

2011.12.29: 初版発行

発行: P-club

販売: P-collection&Engram

発行人: Taro-Nishitokyo

著者: nori-haru

印刷所: Shimaya-Syuppan

~~~~~

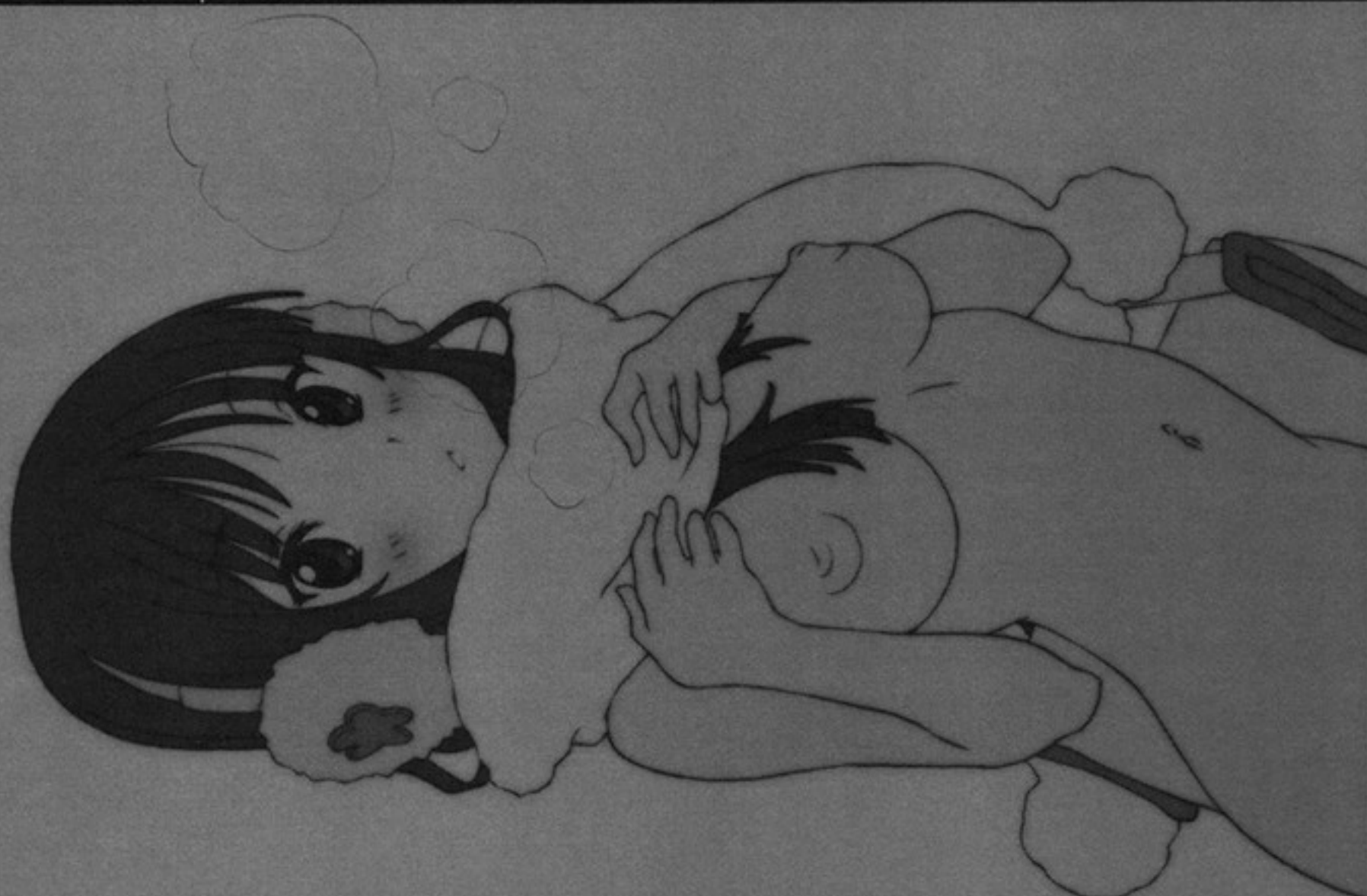
※この本のイベント以外での販売は「とらのあな」のみとしております。

当サークルの発行物に関してイベント以外でのご購入は全国の「とらのあな」様にてお買い求め下さい。

※未成年の閲覧及び購入は一切認めておりません。

※落丁・乱丁等によるお取替えには応じかねますのでご了承下さい。

※筆者及び発行人の許可無く本文の一部及び全部の転載・複製を禁じます。



タイトルの半分であるけい〇んが入らなかった..また次の機会に(>\_<)









は  
な  
な  
な  
な

P-COLLECTION